



校歌

作詞 友納友次郎
作曲 小松 耕輔

神田の流れ 水清らかに
富士は野末に 真白くそびゆ
ここむさし野に 草切りひらき
そそり立ちたり 我らが校舎
ふるえ ふるえ 第三戸塚

ふみよむあけくれ 師をうやまい
友とむつみて はげみにはげむ
校風の美は これわがほこり
栄光とわに 輝くところ
ふるえ ふるえ 第三戸塚



戸三小の歴史 *The history of Totsuka Daisan elementary school*

大正	15. 6. 1	東京府豊多摩郡戸塚第三尋常小学校として開校 (児童数726名) 校章制定	45.11. 2	開校45周年記念式典	17. 6. 4	開校80周年記念式典	
昭和	3.11.	校歌制定	46. 3.15	プール改修	17.10.28	国語科・算数科研究発表会 (区教委研究発表校)	
	7.10. 1	東京市戸塚第三尋常小学校と校名変更	46.11. 5	理科研究発表会 (区教委研究発表校)	20. 1.22	算数科研究発表会 (区教委研究発表校)	
	16. 4. 1	東京都東京市戸塚第三国民学校と校名変更	50.11. 1	開校50周年記念式典	21. 3.28	19-20年度 区連携教育推進研究校紙上発表	
	18. 4. 1	東京都戸塚第三国民学校と校名変更	53. 9. 1	校庭全面舗装改修	22. 4. 6	入学式・鉄腕アトム新宿区特別児童任命式	
	19. 9.10	群馬県草津温泉及び安中町へ学童疎開	55. 2. 7	体育科研究発表会 (区教委研究発表校)	22. 6. 5	開校85周年記念式典 校帽制定	
	20. 5.25	戦災により全校焼失	55.11. 6	開校55周年記念式典挙行	22.11.12	21・22年度 算数科研究発表 (区教委研究発表校)	
	20.11.	疎開地より復帰、落合第四小学校で授業再開	60.11. 2	開校60周年記念式典挙行	24.10.26	23-24年度 体育科研究発表 (区教委研究発表校)	
	21.12.23	第1期校舎新築	62. 1.29	国語科研究発表会 (区教委研究発表校)	25.12. 9	校庭人工芝生花記念セレモニー	
	22. 4. 1	東京都新宿区立戸塚第三小学校と校名変更	平成	元.12.26	2.11. 2	開校65周年記念式典	
	23.10. 7	第2期校舎新築		2.11. 2	3. 1.29	理科・生活科研究発表会 (区教委研究発表校)	
	25. 6.10	第3期増築 開校25周年記念式典		6.11. 8	6.11. 8	社会科・生活科研究発表会 (区教委研究発表校)	
	26. 9. 3	西戸山小学校開校に伴い児童215名分離 完全給食開始		7.10.30	7.10.30	音楽室・放送室内部改修及び コンピュータ室新設	
	30. 6.28	東京都公開社会科研究発表会 (30周年記念事業)		7.11. 4	7.11. 4	開校70周年記念式典	
	35.11.25	道徳研究発表会 (区教委研究発表校)		8.10.30	8.10.30	耐震工事	
	38. 6.18	道徳公開研究発表会 (文部省実験学校)		11.11.22	11.11.22	コンピュータ利用教育研究発表会 (区教委研究発表校)	
	38.11. 8	屋内体育館落成		13. 1.20	13. 1.20	開校75周年記念式典	
	40. 1.12	学研教育賞受賞		15.10. 1	15.10. 1	コミュニケーション活動研究発表会 (区教委研究発表校)	
	41. 2.15	開校40周年記念誌発行					
					令和	2. 3.25	第94回卒業式(卒業生総数 8,958名)
						2. 4. 1	オリンピック・パラリンピック教育アワード校
						2.12.25	プール改修
						3. 2.15	体育館に冷暖房設置

開校 **95** 周年

新宿区立戸塚第三小学校

戸三小の1年



春

夏

秋

冬



町名の変遷

戸塚第三小学校がある「高田馬場三丁目」。

その町名は、時代とともに移り変わってきたもので、古くは約五百年前にさかのぼります。

『長禄江戸絵図』（一四五〇年代後半の街の様子を記した地図）に初めて「富塚村」という地名が現れました。現在の高田馬場一〜四丁目、西早稲田一〜三丁目、百人町四丁目、戸塚町一丁目の範囲です。

今のように「戸塚」と呼ばれるようになるまでは、富塚・十塚・狐塚という呼び方もありました。それぞれの呼び方には地域に根付いた由来があります。富塚は、西早稲田一丁目にある宝泉寺の境内に「富塚」という塚があり、これを地名として呼んだとされています。十塚は、この地域に古塚が多かったことからつけられています。また、狐塚と呼ばれるようになったのは早稲田水稲荷神社（稲荷神（狐）を祀る神社）があったからです。

それらが戸塚という地名に統一されたのは、江戸



時代の一七〇〇年頃です。大阪夏の陣で西軍の武将として活躍した真田幸村の遺臣、小泉源兵衛が、高田馬場二丁目のある東部と西早稲田三丁目のある西部を開拓しました。その際に、それぞれの区画で村の呼び名が決まり、高田馬場三丁目・四丁目は

「戸塚村」または「上戸塚村」となったのです。この呼び名は、大正二年（一九一三年）まで続きました。翌年、町制が施行され「戸塚町」という名に変わります。

そして、戸塚町になり六十年が過ぎた昭和五十年六月一日、住居表示変更により、現在のように「高田馬場三丁目」と表記されるようになりました。

戸塚の教育

昔、今のような学校ができる前は、武士の子供には幕府の学問所があり、町人やお百姓の子は寺子屋に通って勉強をしたので、日本人は字の書ける人の割合が世界一でした。



戸塚村は観音寺住職、早稲田村は大橋刀自、諏訪村は玄國寺住職が、読み書き算盤の寺子屋教育を行いました。

明治になり、戸塚村には大河原半蔵が私塾を開きました。

大正十五年（一九二六年）六月一日に戸塚第三尋常小学校は開校しました。

戸塚第三尋常小学校は関東大震災で、山の手に移り住む人が増え、九十四年前に戸二小より十二

の教室が直撃を受けて焼けてしまいました。

そして五月二十五日、とうとう町は十時間以上燃え続け、小滝橋、観音寺方面から移ってきた炎は次第に学校まで押し寄せてきました。ついに学校は全部焼けてしまいました。

「空襲の時は、いつも西風が吹いていたように思います。熱くて、けむくて、いたくて、息苦しくて、川に飛び込みたいと思ったほどです。」当時を知る人は、今でもその様子を生々しく覚えているそうです。

八月六日には広島に、九日には長崎に原子爆弾が落とされました。昭和二十年八月十五日、人々を悲しませた戦争は終わりました。親からはなれ、疎開生活をしてきた子供たちも、十月には東京の家族のもとへ帰ることができました。

学童集団疎開

昭和十九年になると、アメリカ軍の空襲が激しくなり、東京においては命が危なくなってきました。

そこで、田舎に親せきや知り合いの家がある人は、家族と一緒に疎開しました。しかし、田舎に親せきや知り合いのない子供は、学校でまとまって疎開することになりま



学級七百二十六名が分かれて開校しました。戸一、戸二小、戸三小の順に開校されています。元同窓会会長、PTA会長の小林さんは、戸三小の卒業生ですが、お父様が戸二小、お祖父様が戸一小の卒業生だったそうです。お祖父様は約三キロメートルの距離を毎日歩いて通学したそうです。

『戸三小開校四十五周年記念誌』に、第一回卒業生の友納武人さんは、次のように書いています。「戸二小に残る児童と、戸三小に行く児童とが向き合ってお別れの挨拶をしました。戸二小の校長先生が饅頭を作ってくれた新しい戸三小の校旗を持った六年生（友納武人さん）を先頭に、隊列を組み戸三小まで行進をしました。校舎は米材の松で、新しく嬉しかったのですが、校庭は、関東大震災で倒れた東京電力の変電所の古い煉瓦がごっこつと捨ててあり、到着した日から、岩崎初代校長先生も児童も、近所の竹藪の土をモッコで運んで、まず校庭を造るのが、みんなの仕事でした。神田川は戸三小の校庭を包むように流れていました。水は校歌にあるようにきれいではありませんでしたが、あちこちに水車がゴットン、ゴットンと廻っていて周囲はほとんど水田でした。」



地域の発展とともに在籍者も千百十八名に増加しました。しかし、戦後はさらに住民

した。

戸塚第三国民学校の子供たちも、昭和十九年九月、群馬県草津町に集団疎開することになりました。疎開する前、裁縫室で父母や残り組の先生方に、壮行会をしていただき、九月十日に三年生以上三百七十七名が、九人の先生方、十二名の寮母さんに付き添われて出発しました。東京から十時間をかけての長い旅で、明け方、乗り換え駅の軽井沢に着いた時は、本当に寒さびしさもひとしおだったそうです。

疎開地では、七つの旅館に分かれて生活しました。十分とは言えないまでも先生方、疎開先の方々のご尽力で手に入れた食べ物、米、砂糖、缶詰などの配給物と一緒に大事に大事に食べていく生活が続きました。

しかし、育ち盛りの子供たちは、お腹は随分すいていて、イナゴの佃煮、ジャガイモ、乾燥リンゴなどを食べ、ヤギの乳なども飲みました。また、ご飯の中に花豆を入れて、ふつくと多くして食べるなど、少しでも腹のたしになる食べ方も工夫したそうです。

一日の生活は、朝六時起床、洗面、そうじ、体操をして朝食。午前中は東京から送られてきた裁縫機やオルガンを使いながら、一生懸命に勉強



空襲

太平洋戦争が始まり、学校の生活も少しずつ変わりました。「東京市戸塚第三尋常小学校」から、「戸塚第三国民学校」と変えられました。「修身」「国史」「裁縫」など、今と違う教科がありました。

戦争がはげしくなるにつれて、東京にもアメリカの爆撃機が、焼夷弾を雨のように落としました。



空襲警報が鳴り出すと、学校では集団疎開をしなかつた子供たちを家に帰らせ、職員は全員で校舎を守りました。

昭和二十四年四月十三日、新宿にやってきたB29爆撃機により、早稲田地域は炎に包まれ、今の西友ストアの前まで火の手がきたそうです。学校でも、裁縫室の屋根に焼夷弾が落ち、新校舎の四つ



清らかな水と庭園に憩い学ぶ

コナラやクヌギが生い茂る雑木林、木漏れ日を浴びながら、小鳥のさえずりが心地よく耳にこだまする。広々とした野原には、ススキやオギが群立ってそよぐ。遠くを見渡せば、流麗な富士の山が仰げ、秋にはオニヤンマや赤とんぼ、バッタなどが飛び交う。湧き出る水は、池となり、小川となって、メダカやオタマジャクシ、ドジョウなどが戯れる。こうした自然豊かな武蔵野の大地より、戸三小は95年前に産声を上げました。

年月を経て、都市化が進み、現在ではこのような風情はほとんど見られなくなりました。しかし、家屋が隙間なく立ち始める戸三小の地域にあっても、地元の方や行政の努力があって、わずかながらその趣を味わえる空間があります。戸三小を取り巻く神田川をはじめ、藤兵衛公園やせせらぎの里等の公園は、四季を通じて、地域の大人や子供たちの憩いの場となっています。また、戸三小の子供たちには遊びだけでなく、環境保全や日本の伝統文化について学んだり、地域探検の活動をしたりする場にもなっています。

A せせらぎの里公園

B 神田川

C 神田川

D 茶道会館

E おとめ山公園

F おとめ山公園

G 宮田橋公園

H 高田馬場公園

I 高田馬場公園

J 藤兵衛公園

K 戸塚公園

- A せせらぎの里公園**
近くに落合水再生センターがあり、せせらぎの里に流れる水は同センターで処理された水が使用されている。辺りにはコナラを主体とした雑木林があり、手入れの行き届いた花壇と相まって、花と新緑が楽しめ、夏は子供たちの格好の水遊び場となっている。
- B C 神田川**
吉祥寺の井之頭公園弁天池を水源とした、全長 24.6 キロメートルの一級河川。水道もなく井戸もない時代には飲料水として利用。平成10年度から社会科や総合的な学習の時間に、神田川について調べ学習をしている。新宿区みどり土木部みどり公園課が主宰する神田川ファンクラブの活動に、4年生全員が参加している。
- D 茶道会館**
昭和25年に、戦後の荒廃した状況の中、我が国古来より伝統ある文化、茶道の普及を通して、心の落ち着きを見出そうという理想をもって、茶の道場が建設される。長い年月を経て、庭の樹木が大きく育ち、白木づくりの建物が漆を塗り、日本庭園の趣を醸し出している。毎年、5年生がここで茶道の御手前を学んでいる。
- E F おとめ山公園**
もともとは、江戸時代に将軍家の狩猟地であった。神田川と妙正寺川が合流した斜面を利用して作られた公園。原っぱや緑深い森、湧き出る小川や小さな池があり、多種多様な生物が生息している。湧き水は、都内において身近に触れることができる優れたものとして「東京の名湧水57選」に選定されている。
- G 宮田橋公園**
かつては、東京の若手芸人や俳優志望の人たちがここに集って稽古していたことで有名。住宅地に囲まれ、静かで安らぎの空間を提供。ゲージのバスケットコートがあり、子供たちが楽しく遊んでいる。夏には盆踊りの会場にもなり、多くの人で賑わう。
- H I 高田馬場公園**
高田馬場の住宅街の中にあっても比較的大きくて落ち着いた公園。複合遊具や健康器具があり、子供からお年寄りまで幅広い世代に利用されている。ケヤキなど大きな樹木があり、緑が豊かで、雑路の中のオアシスとして親しまれている。
- J 藤兵衛公園**
土地の寄付を受けて、従来からあった門と扉を生かしながら、滝と流れ、四阿(あずまや)がある日本庭園式の公園として開園。寄付者の名をとり、「藤兵衛公園」と命名。四季折々の花木が楽しめ、水場の近くの四阿では、休憩や散策の折にせせらぎの音を聞きながら、静かなひと時を過ごせる。
- K 戸塚公園**
複合遊具のほか、ぶらんこやすべり台などがあり、子供に人気のある公園。園内にはケヤキやイチョウなどの樹木も多く、夏には木陰を作り、頬をなでる風が心地よい。

戦争が終わったばかりのころは、学校の周りは、焼け野原となり、学校も焼けてなくなっていました。そこで、落合四小の一部を借りて、いっしょに勉強をはじめました。その後、木造の校舎が新築さ

新しい出発

戦開先での一番の楽しみは、何と言っても東京から会いに来る父母との面会の日でした。特に食べ物のお土産があると、面会の子供だけでなく、同じ班の子供たちにもおすそ分けがあるので、非常に楽しみにしていたそうです。

疎開先での一番の楽しみは、何と言っても東京から会いに来る父母との面会の日でした。特に食べ物のお土産があると、面会の子供だけでなく、同じ班の子供たちにもおすそ分けがあるので、非常に楽しみにしていたそうです。

疎開先での一番の楽しみは、何と言っても東京から会いに来る父母との面会の日でした。特に食べ物のお土産があると、面会の子供だけでなく、同じ班の子供たちにもおすそ分けがあるので、非常に楽しみにしていたそうです。



現在の戸三小

平成七年には、創立七十周年の行事が行われ、音楽室などが新築され、緑化工事が完了し、緑あふれる学校に仕上がりました。

「よく考える子」「思いやりのある子」「たくましい子」を学校教育目標として様々な教育活動に取り組

れ、昭和二十二年四月には、「戸塚第三国民学校」から、「戸塚第三小学校」へと校名が変わりました。給食も始まりました。最初の給食は、コッペパン一個と脱脂粉乳だけでした。今の牛乳に比べると、おいしくなかったようですが、みんな喜んで飲んでいました。

昭和二十四年には、校庭に雲梯や低鉄棒が造られ、校庭の環境も整えられていきました。また、増える子供たちのため、昭和二十六年には、「西戸山小学校」が開校になり、戸塚第三小学校から二百十五名の児童が、分かれていきました。戸塚第三小学校が今のような鉄筋の立派な校舎に変わったのは、昭和三十三年からの増改築の後です。昭和四十四年には、給食調理室も鉄筋造りになり、今のようなおいしい給食が作られるようになりました。体育館は、昭和四十五年にでき上がりました。同じ時期に、もともと防火用水を兼ねて造られていた、長さ十五メートルのプールが、長さ二十五メートルになりました。現在のプールに造り替えられたのは、平成元年になってからです。

● なかよし班活動、地区別班活動
なかよし班清掃、なかよし班遊び、全校遠足でのウォークラリー、地域清掃などをなかよし班活動として行っています。また、登校では地区別班で集団登校を実施しています。異学年との交流が盛んなので、全校人数は少なくても子供同士がとて仲良く活動しています。

● 副担任制、習熟度別指導
副担任の先生が朝の会や給食の時間に、一緒に活動しています。また、算数の学習を中心に習熟度別で授業をすることがあります。

● 地域の中で学び、地域の方と行う学習
地域の方も学習のお手伝いをしてください。六年生「高齢者施設への訪問」や「防災」の学習、五年生「米作り体験」や「日本文化」の学習、四年生「神田川ファンクラブ」、三年生「大豆」の学習、二年生「まちたんけん」、一年生「昔あそび体験」などを通して、たくさんの方のご協力のもと学習を進めています。

※令和二年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で実施できない活動がありました。